

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093000059		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	二日市温泉長寿苑そよ風 (ユニット名 天拝)		
所在地	〒818-0052 福岡県筑紫野市武蔵1-1-24	092-922-6952	
自己評価作成日	平成24年6月25日	評価結果確定日	平成24年07月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が自分らしく生活できる場の提供と、お気持ちの尊重・寄り添うケアを心がけております。理念に掲げている「地域とのふれあい」も大切に、地区のサロン参加・防犯パトロール等への参加また、当苑の行事へ参加・運営推進会議への参加を頂きふれ合いも深まっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年07月06日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初より、スタッフ全員で作成した理念を掲げ毎朝の朝礼にて唱和している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には区長・民生委員の方にも参加して頂いている。地域清掃、防犯パトロール等に参加し交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を始め、オムツの換え方など幅広く行い事業所の開放などイベントごとに利用者とはふれ合う機会を作り、実際に感じていただいている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状報告や問題点等を話し合い、その結果を全職員、会社に報告しサービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加頂き、分からないこと、問題点等が出てくると、電話や出向いて相談をおこなっている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なってはいけないことを講習等を行い理解し取組んではいるが、玄関施錠に関しては状況により、行なっている場合がある。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会を毎年行い、日々管理者・リーダーが入浴時等にボディチェックを行って注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年勉強会や研修会等を受講し必要性は理解している。玄関入口にパンフレットを設置しご家族並び見学者まで幅広く情報提供を行なっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約はご家族が納得されるまで時間を設け、十分な説明を行う。また改定等に関しては同意書を作成し、十分な説明を行なった上で、署名捺印を頂いている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時には、必ず状況報告を行い話し易い関係作りに努めている。カンファレンス等には必ず意見・要望をお聞きしプランに取り入れている。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より意見・提案を受け入れている。また、年1回契約更新時には、話し合う時間を設け反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と条件や職員環境に関し、個別面談を設け改善に努めている。また、やりがいや介助方法等の助言や指導を行なっている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	事業所では、現在20代～70代の男女が働いており、男女問わず意欲のある方は働けるようになっている。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する尊厳については、グループホーム会議等でも確認し合い言葉使用に注意している。内部研修・外部研修にも参加している。		
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員は研修期間や担当を決めて、研修を行い、随時な内外研修に参加しスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議では、他事業所と相互に参加し合い情報交換を行いサービスの向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に状態の把握に努めている。又、入所後はこまめに声かけを行い気持ちを汲取ること信頼関係が築けるようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族へ要望等をお聞きし、入所時の第一回目のカンファレンスで、再度確認を行い信頼関係を築けるようしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報とアセスメント、ご本人ご家族の要望等を考慮し必要な支援を見極めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶や食事の時間にいろいろな話を伺い、想いを共有しながら良好な関係作りに努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かと状態の変化が生じた場合に報告を行い、ご家族の要望を聴いたり、受診等に同行して頂けるように声かけしている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いに出かけることが、困難な方もいるが、面会時はゆっくりお話できるように支援を行っている。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうな方同士席を近くにして、関わり合いが持てるようにしている。現在も入居者同士声を掛けや支え合う姿が目に入ってくる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他の施設へ移動された方を訪問して、娘様が当施設に来苑され、お話を伺った事がある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のカンファレンスで必ずお伺いし、その方にとって大切な事は何かを把握している。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談で、ご本人・ご家族・居宅ケアマネに出来るだけ詳しく情報を得る事で、今までの暮らしの把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に担当を決め、こまめに対応している。また、毎日の申送りや月1回のグループホーム会議で、全員が把握出来る様になっている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで課題を見つけ、プラン作成しそれにもとずき、担当者がプランを作成するようにしている。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・プラン実施記録等の記入で、日々の様子を把握出来る様にしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に対応して、必要なサービスを見極め出来る限り対応できるように取組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1度、地域主催のサロンへ参加し地域の方と時間を過ごして、食事等を摂る事で新たな楽しみが出来るようにしている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医を選択できるよう支援している。訪問看護による支援を受け、かかりつけ医と連携を取り異常の早期発見・症状の把握が図れるよう支援している。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間、365日連絡が取れ対応できるようにしている。日常での変化を報告・相談し看護師・担当医へ連絡を取り必要な対応を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、管理者ならび職員が必ず立会い、病院関係者との関係を築き、早期退院できるよう円滑な情報提供をその都度行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成し重度化、終末期について可能な限りホームで対応する事を家族に説明している。ただし、医学的管理の高い重度化について段階をおいて家族、医師を含め話し合いを重ね入院等の支援を行っている。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で起こったヒヤリハットや事故について事例検討を行っている。また、全職員が救急救命講習を受講しており、救急時の応援体制も整えている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を年2回実施し、避難経路、避難場所、車椅子の方の避難方法を訓練時のみならず会議の中でも確認を行っている。地域の協力体制作りも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への声かけに気をつけ、1人1人の人格に応じた対応を心掛けている。又、不穏な方にはその都度声かけをしている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で1人1人の言葉を聴くように心がけている。なかなか伝わりずらいかたには、動作を使い表現している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意見も取り入れ、希望に沿った支援を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容・口腔ケアを入居者に応じた対応を行なっている。また、希望に応じて理美容も行なっている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、ご馳走の日を設け目の前でサイコロステーキを焼いたり、中華バイキング、握り寿司などを行っている。又、方付けは食器拭き、お盆拭きなどして頂く。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を一覧表に作成し毎日の摂取量を把握している。食べる量が少ない方は、栄養バランスの取りやすいゼリーに変えて召上り頂く。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食事後は口腔ケアの声かけを行い、義歯の方の夜間帯は洗浄液につけ洗浄を行なっている。希望の方には、訪問歯科医が治療を行い口腔状態の確認・把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターン、日常生活の様子、失禁の状態等を把握することで、リハビリパンツから布パンツに移行したり、パットの使用量が軽減されるなど、自立に向けた支援を行っている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便状況を日々把握しており、個々に応じて、ヨーグルトやヤクルト等の飲食物での工夫や、散歩など運動など支援している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉がひいてあり、一日おきの午前中を入浴の基本としているが、希望があればいつでも入浴できる体制になっている。利用者の好みや行事としてバラ湯やゆず湯など季節感を味わえる入浴の支援を行っている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調や気分によって自由に休んで頂き、今まで使っていたカーテンや寝具などを持参頂いて安心する空間作りに努め、心穏やかに眠れる様、不安なことなど傾聴の姿勢を保っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の意図や処方経緯等を理解するまで説明を受ける。服薬後の状態把握に努め、状況に応じ医師へ報告を行う。また、入居者への薬局を一元化し、不明な点や薬の把握が出来、医療面で協力頂いている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割、嗜好品や楽しみごと把握しており、ご自身の居室清掃や菜園で野菜作り、季節を意識した生け花など四季折々の花見や果物狩り、工場見学等を企画し実行している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や天気に応じて、隣の公園や武蔵寺への散歩等戸外に出かける支援に努めている。ドライブや蕁狩り等を出かけ、場所等を応じて家族に協力頂きながら支援している。本人の希望を取り入れ買物や外食等の個別支援も計画し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者・家族の希望や能力またはお金への価値観に応じて、職員で支援方法を検討、入居者・家族と話し合い、お金についての支援を行う。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の気持ちを第一とし、電話や手紙のやり取りができるように、ご家族へ支援について十分に説明し、理解頂いたうえで支援している。また、その時の状況等を含めた報告をご家族に行っている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内外は清掃を心がけ、空調と適度な採光で心地よく生活できるよう季節感のある空間を工夫している。又、対面式キッチンから調理の匂いと音が食欲をそそり、リビングには紫陽花の作品を飾り、生活感と季節感を味わって頂けるようにしている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で談笑し過ごして頂けるようにソファを設置し、時に一人掛けのリクライニングソファで落ち着いて過ごして頂けるよう工夫している。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して居心地よく過ごせるよう家族と協議し、馴染み家具、寝具、テレビや家族写真などお気に入りの持ち込んでいただき、居心地良く生活できるように支援している。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉や自身で開閉できるような形状・重さにし居室やトイレなどの表示を大きくしている。又、トイレや居室の空間は広く使い勝手が良いように工夫して必要に応じた改装をしている。		